

## 第 38 回 公益社団法人 日本看護科学学会総会 議事録

日 時 平成 30 年 12 月 15 日 (土) 17:00~18:50

場 所 ひめぎんホール メインホール

松山市道後町2丁目5番1号 TEL: 089-923-5111

出席者数 3,060名 (会場126名、委任状2,934名)

議 長 佐伯 由香

### I. 開会

現正会員数 9,467 名中、開会時会場出席正会員数 72 名、有効委任状提出者 2,934 名、合計 3,006 名であり、日本看護科学学会定款第 45 条に定められた要件を満たしていることが確認され、公益社団法人日本看護科学学会第 38 回学会総会が開会された。

山本則子副理事長が欠席のため、司会は総務の田中真琴理事が代行した。書記は松本智里 (石川県立看護大学) が行った。

### II. 理事長挨拶

鎌倉やよい理事長より、以下の挨拶があった。

中国・四国の集中豪雨災害に遭われた方へのお見舞いの言葉があり、日常生活が繰り返されることがいかに重要か、それに関する看護の役割を強く意識づけられた年であったと述べられた。続いて、本学術集会の佐伯会長への感謝を伝え、参加者数が 1 日目で 3,000 人を超えたことは、素晴らしい企画力と開催地愛媛の魅力であると述べた。JANS がナースングサイエンスに向かいながら進んでいく上で、諸先輩方の功績が礎となっていると敬意を表し、本日までご出席の名誉会員である近藤潤子氏の学術集会へのご協力と参加に対して感謝の意を述べた。

### III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第 44 条に従い、議長に佐伯由香第 38 回学術集会会長が指名された。また議事録署名人として、牧野智恵氏 (石川県立看護大学)、森田夏実氏 (東京女子医科大学) の 2 名が推薦され、承認された。

### IV. 報告事項

本学会総会では、出席者の意見をより多くいただくために審議事項の内容を一新し、理事会の活動をできるだけわかりやすく説明した。

#### 1. 理事長のビジョンと運営方針 (資料 P.3)

鎌倉理事長より、以下の説明があった。

定款第 2 条に定められた JANS の目的や第 3 条に定められた JANS の事業を、方向性を会員にわかりやすく示すため、資料 P.3 に JANS の目的と機能として図に示した。

現在は委員会と事業との連携をわかりやすくすべく整理しているところである。JANS の目的と機能を明示し、ナースングサイエンスに向かって進んでいくという目標をイメージするとともに、それに基づいて社会貢献、国際貢献を行うことを意識している。ナースングサイエンスを構築する事業として、和文誌発行、学術集会の開催、英文誌発行がある。それを支える事業が、看護学術用語標準化、看護ケア開発・標準化、研究活動推進、若手研究者育成、国際活動推進である。今期新しく立ち上げた事業が看護ケア開発・標準化事業である。これらの基盤になる事業として、会員管理、研究倫理啓発、利

益相反管理、関連学術団体等との連携がある。

次に、理事会運営組織図をスライドに示しながら以下のように説明された。事務局の運営はスムーズに進んでいる。総務会と事務所長とで大まかな方針を決め、それを理事会に諮っていくという形で連携を進めている。監事からは、理事会と事務所と両方にわたって意見をいただいている。

<平成 29 (2017) 年度・平成 30 (2018) 年度の実績>

- ・近年の豪雨災害や気候変動に対応すべく、災害看護支援委員会を常設化した。
- ・委員会委員選出の申し合わせ事項の変更をした。委員会の編成時に定款および定款施行細則で定められた人数では社員である代議員から最低限の人数しか選出できない。委員会に入っていない代議員が相当数いることが判明した。これを修正するために、委員の半数を代議員からの選出とし、公募を原則とするというように方向転換を図っているところである。
- ・自然災害により被災した会員の会費減免措置のため、定款施行細則の改正を行い、昨日の社員総会で承認を得た。
- ・2019 年度の活動として、事業と委員会活動の連動できるように、定款施行細則の修正を手掛けている。現在、編集委員会、総務委員会、表彰論文選考委員会以外の委員会は一括して規定されているため、一つひとつ、委員会の目的を明記しながら本会の事業と整合させていくという作業を進めているところである。次期理事会から機能させる予定である。
- ・和文誌編集委員会の体制を変更する。論文投稿数が 160 篇を超える勢いで伸びており、このまま編集委員長 1 人で編集長の業務を行うのは負担が大きいため、次年度から、編集長 3 人体制とするよう編集委員長の選考基準を検討している。
- ・投稿における不正行為防止のガイドラインの決定を行っている。不正行為の事実はないものの、多重投稿が疑われるものがあつた。JANS としての不正行為に対する姿勢を明記し、不正行為があつたときに対応規程の整備を行っている。
- ・今回の学会総会は、出欠を Web 上で取る方法に切り替えた。結果として、例年の往復はがきによる方法と比べても返信数にあまり変化はなかつたので、今後もこの方法を継続していく。これは大きな経費削減につながっている。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかつた。

## 2. 委員会のミッションと事業報告および 2019 年度事業計画について (資料 P.4-17)

資料には各委員会のミッションと事業報告および 2019 年度事業計画が対に表示してあり、それぞれについて以下のとおり、担当理事による説明があつた。

### 1) 総務委員会 (田中理事)

資料 P.4 を基に説明された

主に会員管理、事務所管理、理事会や社員総会、学会総会、選挙等について円滑な進行と効率化、合理化を図っている。

### 2) 和文誌編集委員会 (秋元理事)

資料 P.5 を基に説明された。

2018 年 1 月以降の投稿論文数は 160 論文、採択論文数 40 論文 (2018 年 12 月 15 日現在) と、訂正された。

### 3) 英文誌編集委員会 (江藤理事)

資料 P.6 を基に説明された。

アメリカからホルツマー編集長参加の下、年2回編集委員会を行っている。  
2018年1月以降の投稿論文数は460編超（2018年12月15日現在）（資料を訂正）。  
日本よりも海外からの投稿が多く、イランやトルコからの論文が多い。  
2018年12月22日に開催予定のJJNSセミナーでは査読に対する返答の仕方をグループワークやワークショップを通して展開していく予定である。

4) 研究・学術情報委員会（石橋理事）

資料 P.7 を基に説明された。

2017年に調査した、「看護・保健分野の政策提言のための研究課題の優先順位の特定および研究推進の Strategic Plan の設定」により、学際的な研究の推進、国際研究活動の推進、萌芽的な研究の支援という3つの柱が明らかとなった。これを基に活動している。

第38回学術集會中「2日目に」Strategic plan 特別講演でシドニー工科大学の Caroline Homer 氏に、国際的な研究をどのように展開するかを中心に講演を依頼予定などする。その時に詳しい Strategic Plan の内容も公開予定である。

5) 国際活動推進委員会（中山理事）

資料 P.8 を基に説明された。

WANS の現理事長に、片田範子氏（関西医科大学）が就任し、第6回 WANS 学術集會の学会長を勤められることが発表された。第6回 WANS 学術集會は2020年2月28日（金）、29日（土）に大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）で開催予定である。

6) 看護学学術用語検討委員会（高田理事欠席のため、鎌倉理事長代読）

資料 P.9 を基に説明された。

2019年度は用語集の一部改訂を予定している。

7) 看護倫理検討委員会（佐伯理事）

資料 P.9 を基に説明された。

平成30（2018）年度は「日本看護科学学会科学者の行動規範」の見直しを実施した。2019年度も引き続き、研究活動の不正防止について啓発活動を行う。

8) 社会貢献委員会（小山理事）

資料 P.10 を基に説明された。

より広報活動を拡大するために、ナーシング・サイエンス・カフェのスライドや写真をHPに掲載する予定で進めて行く。条件が揃えば映像の公開も検討したい。

9) 表彰論文選考委員会（須釜理事）

資料 P.11 を基に説明された。

本学会総会内で今年の表彰式を行う予定である。

10) 広報委員会（宮下理事）

資料 P.12 を基に説明された。

記者発表は今年度新たに始めた事業である。愛媛県庁の記者クラブにて記者発表を行った。12月15日愛媛新聞の3面に記事が掲載された。

本会公式ウェブサイトのリニューアルは来年3月末に公開予定である。

11) 若手研究推進委員会（西村理事）

資料 P.13 を基に説明された。

2019年度の事業計画として、特に、「若手の会」の活動を牽引する25名のエリア・コーディネーターが集まって全体討論会を行い、若手研究者からの発信あるいは社会に向けた提言をまとめていきたいと考えている。

- 12) 利益相反委員会（小山理事）  
資料 P.14 を基に説明された。  
特に今までのところ、利益相反に関する問題はなかった。
- 13) 研究倫理審査委員会（山本則子副理事長にかわり、田中理事代読）  
資料 P.14 を基に説明された。  
今年度は 2 件の申請があり、簡易審査を実施した。今後も申請があり次第、対応する。
- 14) 看護ケア開発・標準化委員会（真田理事）  
資料 P.15 を基に説明された。昨年度新設された委員会である。  
統括委員会のリーダーを真田理事、ガイドライン作成チームのリーダーを須釜理事が担当している。  
6 月末日にガイドラインの草案を提出できる予定である。
- 15) 災害看護支援委員会（山本副理事長にかわり、田中理事代読）  
資料 P.16 を基に説明された。  
2019 年度も日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加し、他学会との連携により災害時の対応を検討する。
- 16) 選挙管理委員会（田中理事）  
資料 P.16 を基に説明された。  
事業報告の中の、2019 年選出代議員選挙は実施ではなく準備中である。
- 17) 他機関との連携（①と③を山本副理事長のかわりに田中理事代読、②石橋理事）  
資料 P.17 を基に説明された。  
日本看護系学会協議会、看護系学会等社会保険連合、日本学術会議との連携についてそれぞれ報告があった。
- 18) 学術集会（田中理事）  
資料 P.18 を基に説明された。  
2019 年度に第 39 回（石川）、2020 年度に第 40 回（東京）を開催予定である。

#### 【質疑応答】

質問 和文誌編集委員会へ

質的研究、ミックス法の研究が多くなっている。投稿論文の字数制限最大 16,000 字というのが妥当かどうかを検討していただきたい。ミックス法は複数の研究を統合して発表することに意義がある。分割投稿を防ぐためにも字数制限の緩和を検討してほしい。規定が制定された時代には、論文の公開は紙媒体だったかと思うが、今は Web 配信。費用的にも大丈夫なのではないか。

回答（秋元和文誌編集委員長）

いただいたご意見を和文誌編集委員会で検討する。現在の字数制限が現在の状況に合っているかということや、論文の公開方法が J-STAGE を使用していることを含めて、新たな課題として検討していく。

#### 3. 2019 年度予算について（資料 P.20-25）（村嶋会計担当理事欠席のため、有田事務所長）

資料 P.20～25 を基に説明された。

収支予算書については、理事会で承認済である。

次期繰越収支差額はマイナスの数字になっているが、これは予備費を全額使用した場合の数字であり、予備費を使わなければ収支額は黒字となる予定である。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

#### 4. 第 41 回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告（資料 P.26）

2021年開催の第41回学術集会（JANS41）会長として、百瀬由美子氏（愛知県立大学）が、昨日（12月14日）の社員総会にて承認された旨の報告があった。

### V. 審議事項 理事会への意見

#### 1. 質疑

##### 第 38 回学術集会への意見

本日の学会総会でのポスター発表の会場が大変狭かった。多くの参加者がいたので、質疑ができる状況ではなかった。会場内に入るのも憚られるほどの狭さだったので、断念している会員も多く見かけた。せっかく全国の先生方とお会いして話し合える機会なのに、残念だった。

##### 回答（佐伯第 38 回学術集会長）

会場を回ってみて、自分も狭いと思った。大変申し訳ないが、今回はご容赦いただきたい。次年度以降の改善点として参考させていただく。

#### 2. 理事会へ届いた意見とその対応についての報告（鎌倉理事長）

##### ①受理されてから、J-stage にアップされるまでのプロセスがよくわからない。

委員会としては、誤字・脱字を確認してほしいという意図であったが、受理されたのに、また修正させられるというようなイメージを持ったという意見をいただいた。

対策として、HPに「論文受付から掲載可否決定までの過程」として、そのプロセスを掲載した。

##### ②ハゲタカジャーナルに警鐘をならしてほしい。

一部の海外のジャーナルに、容易に掲載されるが、掲載料として多額の金額が請求されるものがあるため注意を呼びかけて欲しいとの意見をいただいた。しかし、どのジャーナルをハゲタカジャーナルとするか認定するのは困難であり、一学会の問題ではないので、この件は日本看護系学会協議会に提案した。学術会議で協議するという返答を得ている。

以上をもって学会総会の審議事項・報告が終了した。

### VI. 表彰

表彰論文選考委員長の須釜理事が表彰者 3 名を紹介し、受賞者が登壇した。その後、鎌倉理事長より、表彰状と副賞が授与された。対象論文は以下となる。

#### 【優秀賞】

・村田洋章

「What prevents critically ill patients with respiratory failure from using non – invasive positive pressure ventilation: A mixed – methods study.」

#### 【奨励賞】

・池俣志帆

「Effects of a progressive muscle relaxation intervention on dementia symptoms, activities of daily living, and immune function in group home residents with dementia in Japan」

・速水 恵美

3名の受賞者より受賞の挨拶があった。奨励賞筆頭著者の速水恵美氏は欠席のため、共著者の千々岩友子氏が代理で挨拶を行った。

#### VII. 第39回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶

第39回学術集会会長石垣和子氏より以下の挨拶と説明があった。

2019年11月30日（土）、12月1日（日）の両日に、金沢市の石川県立音楽堂（金沢駅前）をメインホールとして第39回日本看護科学学会学術集会を開催する。メインテーマは、「ヒトと人間（ひと）の科学を看護へ～時空を超える我々を知り、看護学を別次元へ発展させよう～」である。サピエンスとしてのヒトがヒトと群れることで、感情や考えを持った人間になるという、他の種とは違った発展を遂げてきたのが、人間という存在である。看護学の発展や看護実践の向上にはヒトと人間の科学を知り、ホリスティックな統合が重要であると考えて、このテーマとした。今後の看護学では緻密で地味な研究の積み重ねを行っていく必要性を感じており、それを看護に活かそうというモチベーションを持ってもらえるような企画を考えたいと思っている。

演題募集期間はフライヤーに載せたものよりももう少し長くなるよう検討する。

このほか、会場アクセスと会場図、金沢の食・文化等について説明があった。

#### VIII. WANS 第6回学術集会会長 挨拶

WANS 第6回学術集会会長片田範子氏より以下の挨拶と説明があった。

WANS（世界看護科学学会）は国内外16の看護学系学会が参加し、世界の看護を繋いでいくという役割を担っている。関西の地で国際的な看護の動きや様々な研究の刺激を集めて、世界への刺激と世界からの刺激を繋ぐことができたらと思っている。6回目の International Nursing Research Conference のテーマは【Knowledge Development in Nursing for Better Health and Life of the People in the World: Sharing the Local Knowledge for Universal Knowledge】である。看護の知識・知恵は書物で言われる知識だけでなく、体験や実践など、結果が伴うところまでを経験することで形成される。世界各国から、独自の発展からなる知識だ、という意見を持ち寄ってほしい。それを繋ぐ場の設定をさせていただきたい。2020年2月28日（金）、29日（土）、中之島の大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）で行う。世界の人々の健康と生活を通して、それに寄与できる看護の知の創造という形で、皆様の知見を、世界の人々と、他の学会の人々とで、繋ぐ場としたい。12月中にHPが立ち上がる予定で進めている。第39回日本看護科学学会の演題募集期間と重なる可能性があるが、全く性格が異なる学術集会を目指しているので、差別化していただければと考えている。楽しく刺激的な学術集会にしたい。

#### IX. 閉会

司会の田中理事より、最終的な出席者正会員数は委任状を含め合計3,060名となり、学会総会が成立していることが改めて報告された。

以上をもって、第38回日本看護科学学会総会が閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め記名押印する。

平成 31 年 2 月 19 日

議長 佐伯 由香 印

議事録署名人 牧野 智恵 印

議事録署名人 森田 夏実 印

## 第38回 公益社団法人 日本看護科学学会総会 優秀論文表彰（優秀賞・奨励賞）

日 時 平成30年12月15日（土）17:00～18:30（予定）  
場 所 ひめぎんホール メインホール  
〒790-0843 松山市道後町2丁目5番1号 TEL (089)923-5111

### 【議事次第】

- I. 開 会
- II. 理事長挨拶
- III. 議長指名および議事録署名人の承認
- IV. 報告事項
  1. 理事長のビジョンと運営報告
  2. 委員会のミッションと事業報告および2019年度事業計画について
  3. 2019年度予算について
  4. 第41回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告
- V. 審議事項 理事会への意見
- VI. 表彰
- VII. 第39回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶
- VIII. 閉 会

## 公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 鎌倉やよい

副理事長 山本 則子

理事：秋元 典子、石橋みゆき、江藤 宏美、小山真理子、佐伯 由香、真田 弘美、  
須釜 淳子、高田 早苗、田中 真琴、中山 洋子、西村 ユミ、宮下 美香、  
村嶋 幸代

監事：阿曾 洋子、南 裕子

### 名誉会員

稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋みどり、川村佐和子、  
小島 操子、小玉香津子、近藤 潤子、中島紀恵子、林 滋子、樋口 康子、  
前原 澄子、松野かほる、矢野 正子、山崎 智子

### 賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、(株)へるす出版

(以上、五十音順・平成30年10月10日現在)

### 日本看護科学学会学術集会会長

第38回学術集会会長

第39回学術集会会長

第40回学術集会会長

佐伯 由香

石垣 和子

萱間 真美

## 社員

### 【北海道】

石垣 靖子  
稲葉 佳江  
大日向 輝美  
河口 てる子  
河原田まり子  
荃津 智子  
中村 恵子  
松浦 和代  
三国 久美  
矢野 理香  
山田 律子  
良村 貞子

### 【東北】

朝倉 京子  
一戸 とも子  
遠藤 芳子  
小野 幸子  
工藤 せい子  
佐藤 富美子  
塩飽 仁  
武田 淳子  
武田 利明  
原 玲子  
布施 淳子  
古瀬 みどり  
眞壁 玲子  
宮下 光令  
吉沢 豊予子  
吉田 俊子

### 【関東A】

飯田 苗恵  
岩永 喜久子  
上野 恭子  
内田 陽子  
角田 直枝  
金子 昌子  
加納 尚美  
川口 孝泰  
神田 清子  
近藤 浩子  
佐藤 正美  
佐藤 由美  
鈴木 純恵  
中村 美鈴  
成田 伸  
春山 早苗

廣瀬 規代美  
福島 道子  
森 千鶴  
横山 京子  
吉田 久美子

### 【関東B】

青木 きよ子  
荒木 暁子  
荒木田美香子  
石井 邦子  
石橋 みゆき  
太田 喜久子  
大塚 眞理子  
叶谷 由佳  
黒田 久美子  
黒田 裕子  
酒井 郁子  
坂上 明子  
佐藤 紀子  
佐藤 まゆみ  
諏訪 さゆり  
田高 悦子  
谷本 眞理子  
手島 恵  
長江 弘子  
野地 有子  
正木 治恵  
眞嶋 朋子  
増島 麻里子  
宮崎 美砂子  
宮脇 美保子  
森 恵美  
吉田 千文

### 【東京A】

麻原 きよみ  
泉 キヨ子  
井上 智子  
井部 俊子  
及川 郁子  
上別府 圭子  
亀井 智子  
萱間 眞美  
齋藤 やよい  
眞田 弘美  
武村 雪絵  
田代 順子  
永田 智子

西村 ユミ  
深堀 浩樹  
堀内 成子  
前田 樹海  
丸 光恵

森田 夏実  
山本 則子

### 【東京B】

秋山 正子  
飯野 京子  
柏木 公一  
香春 知永  
川野 雅資  
北 素子  
洪 愛子  
佐々木 幾美  
佐藤 紀子  
志自岐 康子  
高田 早苗  
武田 祐子  
鶴田 恵子  
野末 聖香  
平野 かよ子  
福井 トシ子  
本庄 恵子  
宮子 あずさ  
守田 美奈子  
吉田 みつ子  
綿貫 成明

### 【甲信越】

浅川 和美  
阿部 正子  
遠藤 みどり  
小林 たつ子  
小林 康江  
定方 美恵子  
清水 嘉子  
水野 恵理子  
渡邊 タミ子  
渡辺 みどり

### 【北陸】

稲垣 美智子  
上野 栄一  
川島 和代  
紺家 千津子  
須釜 淳子  
平松 知子

牧野 智恵

### 【東海】

會田 信子  
足立 はるゑ  
足立 久子  
天野 瑞枝  
池松 裕子  
太田 勝正  
大津 廣子  
大西 文子  
岡田 由香  
門間 晶子  
勝田 仁美  
鎌倉 やよい  
紙屋 克子  
北山 三津子  
黒江 ゆり子  
小松 万喜子  
杉浦 太一  
鈴木 みずえ  
多喜田 恵子  
滝内 隆子  
深田 順子  
古田 加代子  
本田 育美  
村本 淳子  
百瀬 由美子  
柳澤 理子  
山内 豊明  
山田 紀代美

### 【近畿A】

青山 ヒフミ  
阿曾 洋子  
荒尾 晴恵  
安藤 幸子  
上野 昌江  
江川 幸二  
小笠原 知枝  
北村 愛子  
工藤 美子  
グレッグ美鈴  
河野 あゆみ  
坂下 玲子  
佐藤 禮子  
清水 安子  
鈴木 久美  
鈴木 志津枝

高見沢恵美子  
田中 京子  
泊 祐子  
檜木野 裕美  
簗持 知恵子  
早川 和生  
林 優子  
藤原 千恵子  
法橋 尚宏  
増野 園恵  
町浦 美智子  
松田 宣子  
森 菊子  
山本 あい子

### 【近畿B】

江川 隆子  
遠藤 俊子  
岡山 寧子  
桂 敏樹  
我部山キヨ子  
河原 宣子  
北島 謙吾  
小板橋喜久代  
田村 恵子  
西田 直子  
任 和子  
野村 陽子  
星野 明子  
若村 智子

### 【中国・四国】

秋元 典子  
池添 志乃  
植田 喜久子  
岡本 玲子  
雄西 智恵美  
掛田 崇寛  
國方 弘子  
小山 眞理子  
佐伯 由香  
島内 節  
新道 幸恵  
祖父江 育子  
竹崎 久美子  
田中 マキ子  
近田 敬子  
津島 ひろ江  
時長 美希

中西 純子  
中野 綾美  
中山 洋子  
西田 真寿美  
乗松 貞子  
深井 喜代子  
藤田 佐和  
保科 英子  
南 裕子  
宮腰 由紀子  
宮下 美香  
森本 美智子  
森山 美知子  
山勢 博彰

### 【九州・沖縄】

宇佐美しおり  
宇都 由美子  
浦田 秀子  
大池 美也子  
岡崎 美智子  
奥 祥子  
小野 ミツ  
嘉手苺 英子  
木下 由美子  
金城 芳秀  
国府 浩子  
佐藤 香代  
正野 逸子  
田中 美智子  
堤 由美子  
寺町 芳子  
中尾 久子  
鳩野 洋子  
東 サトエ  
日高 艶子  
藤崎 郁  
藤田 君支  
前田 ひとみ  
松浦 賢長  
松尾 ミヨ子  
三重野 英子  
村嶋 幸代

以上、264名  
地区別  
五十音順

(平成30年10月10日現在)

## IV. 報告事項

### 1. 理事長のビジョンと報告

日本看護科学学会は公益社団法人として、学術集会の開催、和文誌発行、英文誌発行の事業を行い、Nursing Science を構築し発展させて、国内への社会貢献と国際貢献を行うことを目的としています。これらの事業を支える活動の 5 つの柱として「看護学術用語標準化」「看護ケア・開発標準化」「研究活動推進」「若手研究者育成」「国際活動推進」があります。さらに基盤活動として、会員管理、研究倫理啓発、利益相反管理、関連学術団体等との連携を位置付けました。平成 29 (2017) 年度の総会で「JANS の目的と機能」(図 1) として示し、この活動を実現するための理事会運営組織図を示しました。これらをホームページに公開し、公益社団法人として事業や運営の透明性を高める努力をしてきました。

組織体制に関して、定款に記された事業と委員会業務が整合していない課題に取り組んできました。定款施行細則には 3 事業(学術集会開催、和文誌発行、英文誌発行)の委員会に加えて、論文選考委員会と総務委員会のみが規定され、その他 11 委員会は一括で規定されています。さらに、社員数が 1~2 名に規定されているために、社員の委員会への参加が減少する原因となっていました。これらを解決するために、平成 29 (2017) 年度は暫定的に委員会メンバーの構成について半数を代議員とする方針を理事に依頼し、委員会に社員の占める割合は高くなりました。正会員からの委員選出には、若手を加えることを方針としました。平成 30 (2018) 年度は定款事業と委員会業務の整合、委員会の活動目標の明示、構成員の明示のために、定款施行細則の改正に取り組んでいます。また、2019 年度の委員選出時には、公募を原則として委員長が選出する申し合わせに変更いたしました。

次に、学術集会の開催、和文誌発行、英文誌発行の 3 つの事業は順調ですが、和文誌への投稿数が年間 150 編を超えるまでに増加したことに伴い、和文誌編集委員会は編集長 2 名体制とするよう検討しています。一方、不正が懸念される論文も散見され、不正防止のためのガイドラインの作成、不正行為への対応に関する規程について検討を進めてきました。また、新設した「看護ケア開発・標準化委員会」ではケアガイドライン作成に向けて活動を活発化し、災害看護支援委員会については常設委員会としました。どの委員会も委員長を中心に活動し成果を残しています。

また、学会総会の出欠の回答について往復はがきを用いていましたが、会員管理システムを使用した回答方法に変更しました。回答数は例年と同様であり、今後もこれを継続できると判断しています。現在、従来のホームページから、より見やすくセキュリティを充実させたものへとリニューアルが進行中であり、今年度末の公開を予定しています。

JANS 理事会として尽力して参ります。ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

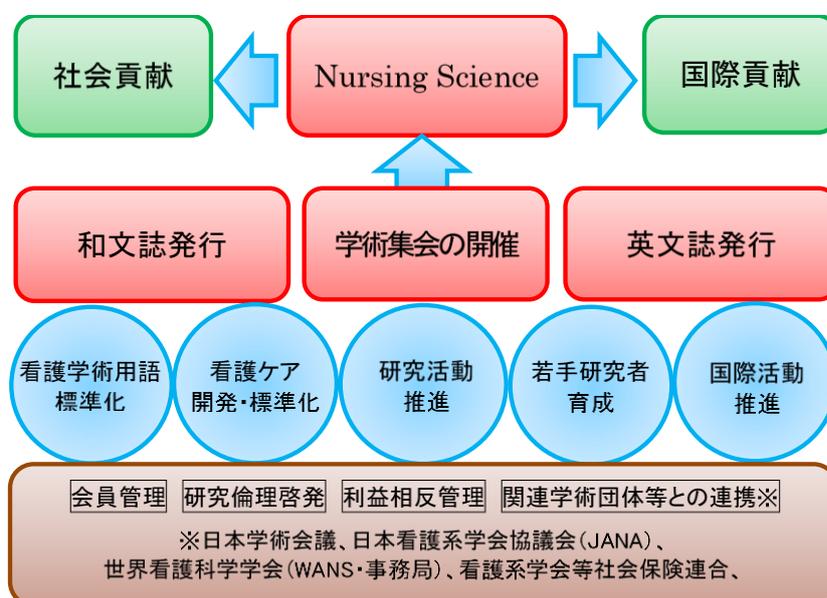


図 1 JANS の目的と機能

## 2.委員会のミッションと事業報告および2019年度事業計画について

### 委員会

(1) 総務委員会	
委員会のミッション	事業報告
<p><b>【会員管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・適正な入退会審査</li><li>・効率的な会員管理・サービス</li></ul> <p><b>【事務所運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本会の目的達成のための様々な事業を安定的に支えることが出来る事務所運営</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。</li><li>・学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。</li><li>・事務所職員との緊密な連携をとり、情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。</li><li>・理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。</li></ul>
2019年度事業計画	
<ul style="list-style-type: none"><li>・入会審査を行う。</li><li>・会員管理データシステムの稼働状況を把握し、会員向けのコミュニケーションサービス（一斉メールの配信、学術集会・セミナー参加登録、Web選挙等）の課題を把握し改善に努める。</li><li>・本会の目的を達成し、安定した事務所運営が可能な職員体制確立のため、各職員が立てた業務目標についてその達成度を評価・査定する。各職員が現在の所掌業務に関するマニュアルを整備・見直しを行うよう促し、より一層の事務所機能の安定化、効率化を図る。</li><li>・事務所運営に関する課題発見、更なる充実のために月に1回訪問し、職員の向上心維持に努める。事務所職員が各委員会委員長との連携を強化し、各事業へのサポート機能を充実できるよう働きかける。</li></ul>	

(2) 和文誌編集委員会	
委員会のミッション	事業報告
<p>学術界および一般社会に対する情報発信手段としての日本看護科学会誌（以下、学会誌）、および学会員のみならず一般の人々にとっての情報入手・獲得手段としての学会誌を発行することをミッションとする。このミッションを遂行するために、学会誌発行のための編集活動を行う。この編集活動は、学会員の新しい研究成果および実践成果等が倫理的観点を含めた適切な査読過程を経たうえで早期に掲載されることを目指して行う。</p>	<p>学会誌（日本看護科学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018（平成30）年3月末、日本看護科学会誌37巻を発行（掲載論文総数 52編）。</li> <li>・日本看護科学会誌38巻（電子ジャーナル）の発刊（12月3日時点で21編を公開中）</li> <li>・論文公開時には会員向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行う。</li> <li>・査読ガイドラインに則り、査読システムの効果的運用と質向上をはかる。</li> <li>・投稿規程の一部改正（原稿執筆に係る内容を原稿執筆要領として別途作成）（2月8日）</li> <li>・論文受付から掲載可否決定までの過程を公開（4月4日、HPにアップ）</li> <li>・論文受理からJ-STAGE公開までの過程を公開（4月4日、HPにアップ）</li> <li>・原稿執筆要領を一部改正（9月17日、9月20日HPにアップ）</li> <li>・2018（平成30）年1月以降の投稿論文数：154論文、採択論文数：37論文（平成30年12月3日現在）</li> <li>・学会誌への投稿を促進し、原著論文・総説の掲載数増加を図った。</li> <li>・表彰論文選考に参画した。</li> <li>・和文誌編集委員会を開催した（7月8日）。</li> <li>・日本看護科学会誌への投稿に関する不正行為防止のためのガイドラインを作成する。</li> <li>・第38回日本看護科学学会学術集会において、和文誌編集委員会企画の交流集会を開催する。</li> </ul>
<p><b>2019年度事業計画</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本看護科学会誌第39巻を発行する。</li> <li>・査読ガイドラインに則り、査読システムの効果的運用と質向上をはかる。</li> <li>・学会誌への投稿を促進し、原著論文・総説の掲載数増加を図る。</li> <li>・学会誌への投稿・掲載の促進および編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラム（交流集会）を開催する。</li> </ul>	

(3) 英文誌編集委員会	
委員会のミッション	事業報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本から世界へ学術情報を発信するためにオンラインでJapan Journal of Nursing Science を年4回発行する。</li> <li>・質の高い英論文の発刊のため投稿の促進、スムーズな査読や編集作業のシステム改善のため、英論文に関するセミナーの開催や、国際水準の情報発信</li> <li>・若手研究者の育成と投稿促進</li> </ul>	<p>日本から世界へ学術情報を発信するため2004年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）の発行を開始、2014年からは online-only journal として、年4回の発行を実施。また JJNS セミナーも毎年開催。</p> <p>① Japan Journal of Nursing Science の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Japan Journal of Nursing Science Vol.15 をオンラインで発刊した。</li> <li>・ 2018（平成30）年1月以降の投稿論文数は、400編超であった。2018（平成30）年10月31日現在）。</li> <li>・ 表彰論文選考に参画した。</li> <li>・ JANS38 で、JJNS 投稿コンサルテーションを実施する。</li> <li>・ impact factor は、1.062 になった。2018（平成30）年6月発表による。</li> </ul> <p>② JJNS セミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JJNS セミナー： Improving Your Success at Publishing in English 2018 を開催する。 2018（平成30）年12月22日</li> </ul>
2019年度事業計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Japan Journal of Nursing Science Vol. 16 を発行する。</li> <li>・ JJNS セミナー2019 を開催する。</li> <li>・ JJNS プロモーション活動を実施する。</li> </ul>	

(4) 研究・学術情報委員会	
委員会のミッション	事業報告
<p>会員の看護学の専門分野横断的研究、学際的研究、国際的研究の推進を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信</li> <li>・研究者ネットワーク構築の仕組みづくり</li> <li>・看護学研究者の研究能力向上のための事業の実施</li> </ul>	<p>看護学の専門分野横断的研究、学際的研究、国際的研究の推進を目的に国内外の看護学研究に関する情報の収集・整理・発信を行うことを目的に、研究者ネットワーク構築の仕組みづくりと看護学研究者の研究能力向上のための事業を実施。</p> <p>①委員会としての活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究事業「看護・保健分野の政策提言のための研究課題の優先順位の特定制定および研究推進の Strategic Plan の設定」により明らかとなった、看護学が今後優先して取り組むべき研究課題および整備すべき研究体制に基づき、第 12 回 JANS セミナーおよび第 38 回学術集会における特別講演を企画した。なお、調査結果は JANS ウェブサイトに掲載している。</li> <li>・第 38 回学術集会において、Strategic Plan 特別講演を開催する。(2018 (平成 30) 年 12 月 16 日午後、ひめぎんホール、松山市)</li> <li>・JANS が所有している研究リソース(過去の報告書、セミナー資料、動画等)のアーカイブ化を継続して行った。</li> </ul> <p>②JANS セミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 12 回 JANS セミナー「学際的な研究プロセスと戦略的な組織づくりー異分野異業種の連携研究による看護ケア開発ー」を開催した(2018 (平成 30) 年 6 月 17 日 AP 東京八重洲通り)。参加人数は、会場受講 110 名(会員 107 名、非会員 3 名)、Web 受講 128 名(会員のみ)であった。</li> </ul>
<b>2019 年度事業計画</b>	
<p>1.Strategic Plan を踏まえた事業展開</p> <p>1)自らの専門性を学際的研究の中で発揮できる人材を育成するモデルの検討と提案</p> <p style="padding-left: 20px;">(1)看護学研究者の研究能力向上のための事業</p> <p style="padding-left: 40px;">第 14 回 JANS セミナーの企画：シンポジウム 国際共同研究によるヘルスケア課題解決への道筋</p> <p style="padding-left: 20px;">(2)教育資料(セミナー講義、資料)のアーカイブ化の継続</p> <p>2)萌芽的研究課題の方向性と、研究助成実施可能性の検討</p> <p>2.看保連への参画</p> <p>1)総会、研修会等への出席</p> <p>2)理事会にて検討すべき事項の提案と整理</p>	

(5) 国際活動推進委員会	
委員会のミッション	事業報告
<p>国際活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学術（看護学）の国際交流</li> <li>・ グローバル化への対応</li> </ul>	<p>国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築および国際活動の推進、世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）の事務局運営を担当。</p> <p>①委員会としての活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JANS ホームページ内の異文化看護データベースを見直し、データベースのあり方を再検討した。その結果、これまでの異文化看護データベースの枠組を基にデータの内容（項目の枠組）や情報提供のあり方を再検討し、高齢者や終末期に関する項目などを追加した枠組を設定した。現在までに、カンボジア、スリランカ、中国、フィジー、ザンビアについて新しい内容に更新した。</li> <li>・ 世界看護科学学会（WANS）事務局業務を行う（HP 維持管理含む）。</li> </ul> <p>②世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界看護科学学会（WANS）事務局として会員への連絡調整等の業務を実施するとともに、WANS 第 6 回学術集会を日本で開催する準備を支援した。</li> </ul>
2019 年度事業計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 30 年度に引き続き JANS ホームページ内の「異文化看護データベース」の内容を変更・更新し、再構築することに取り組む。また、「異文化看護データベース」の名称と活用についても検討する。</li> <li>・ 世界看護科学学会（WANS）事務局として 2019 年度に日本で開催する第 6 回 WANS 学術集会の開催を支援する。WANS 会員の拡大を図り、第 6 回 WANS 学術集会に海外からの参加者が増えるように広報活動を行う。また、WANS 事務局として HP の充実、維持管理を行う。</li> </ul>	

(6) 看護学学術用語検討委員会	
委員会のミッション	事業報告
<p>本委員会は、看護が扱う専門用語の概念的統一を図ることを目的として発足し、これまでに「看護学学術用語」、「看護行為用語分類」、「看護学を構成する重要な用語」の特定と定義づけを行い、刊行してきた。当初の学的基盤の確立を目的とした用語検討であったが、近年では急速に変化を遂げる社会のなかで看護の専門性を明確化することが求められるようになった。第13・14期ではこれらの社会的背景や看護研究の進展をふまえ、検討が必要な用語を洗い出し、用語の再定義、新しい用語の定義を実施した。</p>	<p>看護用語の現状を調査し、看護が扱う専門用語の概念的統一を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学を構成する重要な用語集(2011年)を見直し、修正を要する用語、統合可能な用語、不足している用語の検討を行った。</li> <li>・上記の検討結果ならびに平成28年度実施の3つの用語集に関するWeb調査の結果に基づき、本委員会で検討する用語を選び、用語の再定義、新しい用語の定義を行った。</li> <li>・以上の用語の定義については、学術集会ならびにWeb調査等で会員の意見を収集することを検討している。</li> </ul>
2019年度事業計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学を構成する重要な用語集の一部改訂</li> <li>・一般社会や当事者との協働をふまえた用語の検討</li> <li>・看護実践を表す新しい用語の掘り起こし</li> <li>・学術用語に関する調査より「検討してほしい」との意見のあった用語の検討</li> </ul>	

(7) 看護倫理検討委員会	
委員会のミッション	事業報告
<p>看護学が関連する倫理的課題を整理して即時に対応するとともに研究者のモラルの向上を図る。そのために社会で起きている倫理問題に対して即時に対応して、学会としての見解を社会に向けて発信する。さらに科学者の行動規範・不正行為に関する事項への対応や啓発等を行う。</p>	<p>看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」および日本看護系学会協議会の見解を受けて、－日本看護科学学会の見解－について検討した。また、その内容に関して、会員から意見聴取を行った。それに伴い「日本看護科学学会科学者の行動規範」の見直しを行った。</li> </ul>
2019年度事業計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。</li> <li>・看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。</li> </ul>	

(8) 社会貢献委員会	
委員会のミッション	事業報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学の研究活動を通して人々の健康と福祉に貢献するために、社会で話題になっている課題を取り上げ、市民の皆様や中学・高校生への情報提供を行う。</li> </ul>	<p>一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民フォーラム」や次世代の看護学研究者育成となる「ナーシング・サイエンス・カフェ」を企画・運営する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JANS38 において、「ナーシング・サイエンス・カフェ」(12月15日開催)の企画・運営を行う。 テーマ:「発見!看護の現場最前線~海・山・空で活躍するナースたち~」</li> <li>・ JANS38 において、市民フォーラム(12月16日)の企画・運営を行う。 テーマ:「こころのセルフケア~人びとは四国遍路に何を求めたか~」</li> <li>・ 市民フォーラムやナーシング・サイエンス・カフェは、学術集会開催地の市民や生徒を対象としている。日本看護科学学会の活動として、学術集会開催地以外でこれらのプログラムに興味をもつ人々にも広く公開するための方略を検討していきたい。</li> </ul>
<b>2019 年度事業計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 39 回学術集会に向けた社会貢献事業を検討し準備する。</li> <li>・ 第 39 回学術集会での「市民フォーラム」および「ナーシング・サイエンス・カフェ」を開催する。</li> <li>・ JANS としての社会貢献のあり方を検討する(「ナーシング・サイエンス・カフェ」の講演内容を録画し、日本看護科学学会 HP で配信する)。</li> </ul>	

(9) 表彰論文選考委員会	
委員会のミッション	事業報告
<p>表彰論文選考をとおして、看護学の発展に貢献する研究を検討する。</p> <p>また奨励賞選考をとおして次世代を担う若手看護学研究者の発掘・育成を行う。</p>	<p>日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表彰論文選考手順の一部改正（2016（平成 28）年 9 月）により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文 21 編（和文 10 編・英文 11 編）の選定を受け、表彰論文選考委員会（8 月 7 日開催）で優秀賞・奨励賞候補論文 10 編（和文 5 編 英文 5 編）を審査リストとして作成した。</li> <li>・2018（平成 30）年 8 月 17 日に全代議員・役員 266 名にメールにて採点を依頼した。</li> <li>・10 月 8 日までに返信された 131 件について評価点の集計を行った。回収率 49.2%(131 /266)</li> <li>・優秀賞、奨励賞論文を審査・選考し、理事会にて承認を得た。</li> </ul> <p><b>【優秀賞】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・What prevents critically ill patients with respiratory failure from using non - invasive positive pressure ventilation: A mixed - methods study. Hiroaki Murata Tomoko Inoue Osamu Takahashi Japan Journal of Nursing Science (2017) Volume 14, Issue 4(pages 297-310)</li> </ul> <p><b>【奨励賞】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Effects of a progressive muscle relaxation intervention on dementia symptoms, activities of daily living, and immune function in group home residents with dementia in Japan. Shiho Ikemata Yumiko Momose Japan Journal of Nursing Science (2017) Volume 14, Issue 2(pages 135-145)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学齢期の発達障害児をもつ母親の推論の誤りと抑うつおよび養育態度の関連 速水 恵美、千々岩 友子 日本看護科学会誌 2017 年 37 巻 p. 288-297</li> </ul>
<b>2019 年度事業計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・表彰論文の選考を行い公表する。</li> </ul>	

(10) 広報委員会

委員会のミッション	事業報告
<p>&lt;ミッション&gt;</p> <p>看護学の知識を広く国内外へ発信し、人々の健康と保健・医療・福祉に貢献する。また、学会およびその活動の広報を通じ、人々の看護学に対する理解を促進し、学問の振興に寄与するとともに、学会の認知度の向上を図る。</p> <p>さらに、看護専門職者へ知識と学会活動の情報を提供することにより、教育・研究・実践者としての発展を支援する。</p> <p>&lt;展開&gt;</p> <p>学会広報媒体の作成・維持・管理、学術集会および世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science: WANS)関連の広報、研究成果の情報発信を行う。</p>	<p>日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、記者発表）当日の記録の保存、学会公式ウェブサイトの定期的な更新や管理・運営等を実施。</p> <p>JANS38 広報活動として、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェのフライヤーを作成した。また、学術集会の記録として写真撮影を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本会公式ウェブサイトの内容の更新と整理を事務所と協力のうえ定期的に行った。</li><li>・本会公式ウェブサイトのリニューアル作業を開始した。</li><li>・JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、平成 29 年度表彰論文の掲載および平成 28 年度表彰論文の追加掲載を行った。</li><li>・JANS38 において、交流集会「研究を実践へトランスレーションするための取り組みと課題～研究成果を他者へ伝えることと活用すること～」を企画・開催する。</li></ul>
<b>2019 年度事業計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・学会広報媒体の作成・維持・管理(①公式ウェブサイトの管理・運営 ②他委員会との連携による学会活動の広報 ③学会活動やイベント、学術集会の記録 ④学会広報媒体の評価と改善)を行う。</li><li>・WANS に関連した広報（①WANS 学術集会の広報 ②WANS 学術集会における JANS の広報）を行う。</li><li>・学術集会に関する広報活動（次回学術集会企画委員会、社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動）を行う。</li><li>・研究を実践へトランスレーションするための広報（「看護研究の玉手箱」による論文の紹介）を行う。</li></ul>	

(11) 若手研究推進委員会	
委員会のミッション	事業報告
<p>&lt;ミッション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や専門領域の個性を大切にしつつ、学問領域を超え、国を超え、世代や時代を超えて、未来の看護学を創造・想像する土台を構築する。</li> <li>・学会及び社会に向けて、看護学の発展に寄与する提言を若手研究者の視点から行う。</li> </ul> <p>&lt;展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手研究者の学術活動を支える仕組みをつくり、主体的な相互交流や共同研究が進展することを目指し、地域の特性を活かした研究や社会貢献活動を、社会と共に生み出し継続できる基盤をつくる。</li> <li>・他分野との垣根のない学際的取り組みが実現するよう支援する。</li> <li>・国際交流の足場を作り、具体的展開に繋げる方法を検討する。</li> <li>・未来の看護学を創造するための議論の場をつくり、社会に向けた提案を行う。</li> </ul>	<p>日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。</p> <p>①委員会としての活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JANS38において、交流集会「若手研究者のシーズを育てるネットワークづくり～Evidence-Based Nursingのための学際的研究の進め方～」を企画・開催する。</li> <li>・JANS38において、「若手ネットワークサロン」を企画・開催する。</li> <li>・JANS 若手の会ホームページでの情報発信を行った。</li> <li>・「若手メーリングリスト」より情報の発信を行った。</li> </ul> <p>②JANS セミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回 JANS セミナー「初めての論文投稿と査読対応の実際」を2018（平成30）年3月10日 AP 東京八重洲通りで開催した。参加人数は、会場受講176名（会員124名、非会員52名）、Web受講400名（会員のみ）であった。</li> <li>・セミナー終了後、エリア・コーディネーターのプレ検討会を開催し11名の参加があった。また、「若手の会」九州エリア研究会を3月21日に開催し10名の参加があった。</li> </ul>
2019 年度事業計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術集会の交流集会、若手研究者のニーズに沿った研修を企画運営し、若手の研究活動推進に努める。</li> <li>・国内外の多様な学問分野における若手研究者との交流を図る方法を検討し、システムを作る。</li> <li>・「若手の会」専用のHP及びメーリングリストの管理・更新を通して、委員会の活動公表・周知のほか、若手研究者のニーズ把握、多様な学問分野の情報発信や情報交換、相互交流を行い、若手研究者の学際的な視点の涵養、研究発展の素地づくり、学び集う場の整備を促進する。</li> <li>・各地域で「若手の会」の活動を牽引する「エリア・コーディネーター」を育成し、若手研究者が各地域で積極的に交流できるためのネットワークの基盤をつくる。</li> <li>・未来の看護学および学術のあり方について、若手研究者の理念・思想を共有する場を設け、その発展に向けた提言を行う。</li> </ul>	

(12) 利益相反委員会	
委員会のミッション	事業計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>利益相反 (conflict of interest : COI) に関する本会会員に対して基本的な考え方を示すことによって、本会の研究の公明性と中立性を確保し、看護学研究活動を積極的に推進し、社会的責務を果たす。</li> </ul>	<p>役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大な COI 状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。</li> <li>第 38 回学術集会会長、各講演者および学術集会演題登録時の利益相反申告を実施した。</li> <li>セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。</li> </ul>
<b>2019 年度事業計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象に COI を実施し、評価を行う。</li> <li>利益相反における問題が生じた折の対処をする。</li> </ul>	

(13) 研究倫理審査委員会 (2019 年度事業計画)
<b>事業報告</b>
<p>学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2 件の申請があり、簡易審査を行った。</li> </ul>
<b>2019 年度事業計画</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査のいずれか）を行う。</li> <li>その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。</li> </ul>

(14) 看護ケア開発・標準化委員会

委員会のミッション	事業報告
<p>看護学研究成果のエビデンスに基づき、看護技術（ケア）を開発標準化するモデルを構築する。そのモデルとして「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」を策定する。</p>	<p>研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。そのモデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014 に準拠した誤嚥性肺炎予防のための看護技術（看護ケア）の開発・標準化を目標とし、新たに設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・統括委員会およびガイドライン作成チーム、システマティックレビューチームを結成した。</li><li>・ガイドライン作成チームミーティング（2018（平成 30）年 4 月 21・22 日）を開催し、スコープ草案 CQ を検討した。その後、オンライン上でスコープ草案、CQ の検討を重ねた。</li><li>・システマティックレビューチームミーティングを 2 回開催し、レビュー方法の研修、担当する CQ の決定（2018（平成 30）年 3 月 22 日）、進捗確認・メタアナリシスの研修（9 月 1 日）を行った。</li><li>・統括委員会を 10 月 21 日に開催し、進捗を確認した。第 38 回日本看護科学学会学術集会 シンポジウムを開催する（2018（平成 30）年 12 月 15 日）。</li></ul>
<b>2019 年度事業計画</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>・引き続きシステマティックレビューチームによる文献レビューを行い、CQ ごとにレポートを作成する。</li><li>・ガイドライン作成チームによる推奨文の草案を作成し、推奨の強さを決定する。</li><li>・ガイドライン統括委員会による推奨確認後、草案を作成に着手する</li></ul>	

## (15) 災害看護支援委員会

### 事業報告

- ・2018（平成30）年6月28日から7月8日の「平成30年7月豪雨」や同年9月6日の「北海道胆振東部地震」等では、日本看護系学会協議会からの協力要請はなかった。
- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討する計画であったが、今年度はこれまで災害看護連携会議の開催はない。
- ・日本学術会議防災減災学術連携委員会の第1回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」に傍聴参加した（2018（平成30）年6月5日 日本学術会議 講堂）
- ・防災学術連携体と日本学術会議が主催する防災推進国民大会でのシンポジウムに傍聴参加した（2018（平成30）年10月13日～14日 東京ビッグサイト）

### 2019年度事業計画

- ・日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討する。

## (16) 選挙管理委員会

### 委員会のミッション

適正な選挙管理

### 事業報告

#### ①2019年選出代議員選挙実施

- ・第1回選挙管理委員会を2018（平成30）年7月27日（金）に開催、委員長、副委員長、書記等の役職の決定と、2019年に実施の代議員および役員選挙に関し、今後のスケジュール、委員会日程、公示文書等の確認を行った。
- ・委員長が第3回理事会に出席、代議員選挙に関する公示文書を説明し、承認を得た後、会員へ周知を行った。

#### ②2019年選出役員候補者選挙準備

- ・第2回選挙管理委員会を11月4日に開催、代議員選挙に関する選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、投票手順、今後のスケジュール等について確認を行った。
- ・2019年1月に代議員選挙および代議員名簿の作成、3月に役員候補者選挙を実施の予定。

### 2019年度事業計画

- ・2019年役員候補者名簿の提出

## (17) 他機関との連携

### 事業報告

#### ①日本看護系学会協議会

- ・平成 30 年度総会に出席した。

日時：2018（平成 30）年 6 月 27 日（水）

場所：日本学術会議 講堂

議案：平成 29 年度決算報告、平成 30 年度事業案・予算案、平成 31 年度役員選挙 選挙管理委員の承認他

- ・平成 30 年度臨時総会に出席した

日時：2018（平成 30）年 10 月 27 日（土）

場所：日本赤十字看護大学

議案：平成 30 年度事業案・予算案、平成 31 年度予算に関する議案

- ・医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、10 名の会員を個別調査部会員に、1 名を専門分析部会員に推薦した。

#### ②看護系学会等社会保険連合（看保連）

- ・看保連平成 30 年度研究助成への応募 4 件を審査し、1 件を承認した。
- ・2018（平成 30）年 3 月 7 日（水）診療報酬・介護報酬体系のあり方合同委員会が開催され、診療報酬獲得までの経緯について情報交換がなされた。
- ・2018（平成 30）年 5 月 14 日（月）第 8 回情報交換会が開催され、「平成 30 年度診療報酬・介護報酬改定からみた今後の課題」講演が行われ、委員 3 名が参加した。
- ・平成 30 年度社員総会が 2018（平成 30）年 4 月 27 日（金）に開催された。平成 30 年度の事業計画と新会費案については継続審議となったため、JANS 理事会に持ち帰り、学会としての対応を検討した。同年 7 月、新会費案への意見書を提出し、7 月 25 日付で看保連より回答を得た。看保連の回答を踏まえ、10 月 30 日に開催された臨時総会に理事長と担当委員が出席し、平成 30 年度の事業計画と新会費案について議決した。

#### ③日本学術会議

日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

### 2019 年度事業計画

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

#### ①日本看護系学会協議会

#### ②日本学術会議

#### ③看護系学会等社会保険連合（看保連）

## 学術集会

<b>2018 年度</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>第 38 回日本看護科学学会学術集会準備 学術集会長：佐伯 由香（愛媛大学） 日程：2018（平成 30）年 12 月 15 日（土）・16 日（日） 場所：ひめぎんホール</li></ul>
<b>2019 年度</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>第 39 回日本看護科学学会学術集会準備 学術集会長：石垣 和子（石川県立看護大学） 日程：2019 年 11 月 30 日（土）・12 月 1 日（日） 場所：石川県立音楽堂</li></ul>
<b>2020 年度以降</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>第 40 回日本看護科学学会学術集会準備 学術集会長：萱間 真美（聖路加国際大学） 日程：2020 年 12 月 12 日（土）・12 月 13 日（日） 場所：東京国際フォーラム</li> <li>第 41 回日本看護科学学会学術集会準備</li></ul>

### 3. 2019年度予算について

公益社団法人 日本看護科学学会

#### 2019年度 収支予算書 2019年 4月 1日 から2020年 3月 31日 まで

科 目	補足	2019年度 予算額 (2019. 4. 1～ 2020. 3. 31)	2018年度 補正予算額 (2018. 4. 1～ 2019. 3. 31)	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		500	0	500
特定資産受取利息収入		500	0	500
②会費収入		98,300,000	94,800,000	3,500,000
正会員会費収入	※1	98,000,000	94,500,000	3,500,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入		1,131,000	865,000	266,000
学会誌販売収入		495,000	560,000	△ 65,000
著作権料収入	※3	636,000	305,000	331,000
④寄附金・助成金収入（学術集會含まず）	※4	250,000	250,000	0
⑤セミナー収入		4,355,000	5,245,000	△ 890,000
JANSセミナー	※5	3,345,000	3,880,000	△ 535,000
JNSセミナー	※6	1,010,000	1,365,000	△ 355,000
⑥雑収入		500	1,000	△ 500
受取利息収入		500	1,000	△ 500
⑦学術集會収入		58,022,000	43,468,000	14,554,000
学術集會参加費収入		42,600,000	32,070,000	10,530,000
事前登録会員（10,000円）		20,000,000	13,500,000	6,500,000
事前登録非会員（12,000円税込）		5,400,000	4,800,000	600,000
事前登録学部生（3,000円税込）		210,000	90,000	120,000
当日登録会員（12,000円）	※7	12,000,000	10,680,000	1,320,000
当日登録非会員（14,000円税込）		4,900,000	2,940,000	1,960,000
当日登録学部生（3,000円税込）		90,000	60,000	30,000
寄附金・助成金収入		4,940,000	750,000	4,190,000
寄附金		500,000	750,000	△ 250,000
助成金		4,440,000	0	4,440,000
広告販売収入		9,732,000	9,688,000	44,000
企業展示出展料		5,055,000	4,104,000	951,000
広告掲載料		2,085,000	2,560,000	△ 475,000
スポンサードセミナー		2,592,000	3,024,000	△ 432,000
懇親会収入		750,000	960,000	△ 210,000
<b>事業活動収入合計（I a）</b>		<b>162,059,000</b>	<b>144,629,000</b>	<b>17,430,000</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		99,329,000	82,358,000	16,971,000
学会誌発行費支出		25,927,000	22,820,000	3,107,000
和文誌編集費支出	※8	6,747,000	5,250,000	1,497,000
英文誌編集費支出	※9	19,180,000	17,570,000	1,610,000
編集活動費支出		1,810,000	2,135,000	△ 325,000
和文誌編集委員会費支出		950,000	950,000	0
英文誌編集委員会費支出	※10	860,000	1,185,000	△ 325,000
看護学術振興費支出		6,361,000	6,570,000	△ 209,000
研究・学術情報委員会費支出	※11	856,000	1,736,000	△ 880,000
国際活動推進委員会費支出		1,635,000	1,715,000	△ 30,000
看護学術用語検討委員会費支出		775,000	847,000	△ 72,000
看護倫理検討委員会費支出		535,000	535,000	0
表彰論文選考委員会費支出		245,000	190,000	55,000
若手研究推進委員会支出	※12	1,485,000	740,000	745,000
看護ケア開発・標準化委員会		580,000	607,000	△ 27,000
災害看護支援委員会支出		200,000	200,000	0
研究学術活動支援費支出		4,762,000	5,579,000	△ 817,000
受賞論文表彰費支出	※13	307,000	207,000	100,000
研究倫理審査委員会費		100,000	127,000	△ 27,000
JANSセミナー開催費	※14	3,345,000	3,880,000	△ 535,000
JNSセミナー開催費	※15	1,010,000	1,365,000	△ 355,000
社会的活動費支出		2,212,000	1,565,000	647,000
社会貢献委員会支出（市民フォーラム開催費含む）	※16	1,232,000	535,000	697,000
広報委員会費支出（公益目的事業分）	※17	980,000	1,030,000	△ 50,000

科 目	補足	2019年度 予算額 (2019. 4. 1~ 2020. 3. 31)	2018年度 補正予算額 (2018. 4. 1~ 2019. 3. 31)	差異
学術集会費支出		<b>58,257,000</b>	<b>43,689,000</b>	<b>14,568,000</b>
当年度開催学術集会	※18	<b>55,022,000</b>	<b>40,689,000</b>	<b>14,333,000</b>
会場費支出		36,128,000	17,646,000	18,482,000
会議費支出		576,000	434,000	142,000
旅費交通費支出		990,000	970,000	20,000
消耗品費支出		755,000	1,457,000	△ 702,000
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,678,000	1,893,000	△ 215,000
印刷製本費支出(プログラム印刷費含む)		3,367,000	5,490,000	△ 2,123,000
委託費支出		8,896,000	9,807,000	△ 911,000
人件費支出		167,000	492,000	△ 325,000
謝金支出		486,000	300,000	186,000
雑支出		1,223,000	500,000	723,000
懇親会運営費支出		756,000	1,700,000	△ 944,000
次年度開催学術集会(準備期間)	※19	<b>3,235,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>235,000</b>
会場費支出		0	0	0
会議費支出		120,000	120,000	0
旅費交通費支出		100,000	490,000	△ 390,000
消耗品費支出		360,000	332,000	28,000
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		1,300,000	994,000	306,000
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷費含む)		650,000	597,000	53,000
委託費支出		500,000	300,000	200,000
人件費支出		200,000	167,000	33,000
謝金支出		0	0	0
雑支出		5,000	0	5,000
<b>②管理費支出</b>		<b>61,085,000</b>	<b>65,641,000</b>	<b>△ 4,556,000</b>
給料手当支出	※20	23,630,000	22,800,000	830,000
福利厚生費支出		4,020,000	4,000,000	20,000
通勤費支出		1,900,000	1,900,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※21	860,000	400,000	460,000
社員総会費	※22	4,426,000	3,960,000	466,000
理事会費	※23	4,450,000	3,405,000	1,045,000
委託費支出	※24	6,070,000	9,870,000	△ 3,800,000
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出	※25	384,000	620,000	△ 236,000
通信運搬費支出	※26	1,950,000	2,500,000	△ 550,000
消耗品費支出		1,240,000	1,228,000	12,000
印刷製本費支出	※27	77,000	14,000	63,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		762,000	738,000	24,000
賃借料支出	※28	4,210,000	3,770,000	440,000
保険料支出		85,000	85,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※29	1,100,000	1,072,000	28,000
負担金支出	※30	380,000	150,000	230,000
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出	※31	2,520,000	1,800,000	720,000
総務費支出		541,000	4,849,000	△ 4,308,000
総務委員会費支出		15,000	20,000	△ 5,000
利益相反委員会費支出		106,000	109,000	△ 3,000
広報委員会費支出(法人会計分)	(※17)	20,000	20,000	0
選挙費用支出	※32	400,000	4,700,000	△ 4,300,000
<b>③その他支出</b>		<b>2,000,000</b>	<b>2,000,000</b>	<b>0</b>
資格喪失者会費支出	※33	2,000,000	2,000,000	0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>160,414,000</b>	<b>147,999,000</b>	<b>12,415,000</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>1,645,000</b>	<b>△ 3,370,000</b>	<b>5,015,000</b>

科 目	補足	2019年度 予算額 (H. 2019. 4. 1～ 2020. 3. 31)	2018年度 補正予算額 (2018. 4. 1～ 2019. 3. 31)	差異
<b>Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）</b>				
1. 投資活動収入（各種立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）	※32	400,000	4,700,000	△ 4,300,000
退職給付引当資産取崩		300,000	300,000	0
長期前払費用振替収入（事務所更新料）		0	108,000	△ 108,000
<b>投資活動収入合計（Ⅱa）</b>		<b>700,000</b>	<b>5,108,000</b>	<b>△ 4,408,000</b>
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金	※34	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000
退職給付引当金積立		750,000	690,000	60,000
什器備品購入支出		0	0	0
一脚償却資産購入支出		0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）	※35	108,000	0	108,000
<b>投資活動支出合計（Ⅱb）</b>		<b>1,858,000</b>	<b>2,690,000</b>	<b>△ 832,000</b>
<b>投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）</b>		<b>△ 1,158,000</b>	<b>2,418,000</b>	<b>△ 3,576,000</b>
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（Ⅲa）		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計（Ⅲb）		0	0	0
<b>財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>Ⅳ 予備費支出</b>		<b>3,000,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>0</b>
<b>当期収支差額</b>		<b>△ 2,513,000</b>	<b>△ 3,952,000</b>	<b>1,439,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>		<b>116,366,000</b>	<b>120,318,000</b>	
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>113,853,000</b>	<b>116,366,000</b>	<b>△ 2,513,000</b>

- ※1 2019年4月1日時点での会員数を9,450名、新入会者・再入会者850名、資格喪失者500名と見積もり、合計9,800名分を会費収入として計上。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各1口。会費1口5万円。
- ※3 和文誌・英文誌の著作権料増加にともない増額している。
- ※4 W I L E Y (J J N S 出版社) より著作者養成の取り組みに対する寄附金。
- ※5 第14回 J A N S セミナー参加費収入 (123.5万円)、第15回 J A N S セミナーの参加費収入 (211万円)。
- ※6 2019年度 J J N S セミナー参加費収入。
- ※7 第39回学術集会の参加費収入。
- ※8 投稿論文数の増加により査読システム使用料、編集事務費を増額している。
- ※9 投稿論文数の増加により出版料金および、編集事務費を増額している。英文誌編集長謝金（旅費交通費を含め年間260万円）。
- ※10 若手研究者支援事業（英文校閲支援）は2年連続で該当者がいないため予算計上していない。
- ※11 データアーカイブ方法の見直しおよび、海外講師を招聘する予定がないため減額している。
- ※12 エリアコーディネータ会議の開催費および、第15回 J A N S セミナー開催に関わる委員の交通費により増額している。
- ※13 賞状ホルダー作成のため増額している。（在庫を含め50冊作成）
- ※14 第14回 J A N S セミナー：W E B 受講者の資料送付方法を見直すことにより減額している。  
第15回 J A N S セミナー：若手研究推進委員会（委員）の交通費を委員会経費に移動したため減額している。
- ※15 開催地域が違うため、会場の変更により減額している。
- ※16 市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェの第39回学術集会会場使用料（46.5万円）を含む。
- ※17 【広報委員会の活動費のうち、公益目的事業に関わる費用を事業費に計上している。（学術集會会期中の写真撮影費、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェのポスター制作費・発送費など）。（会議費）は管理費に計上している。】
- ※18 第39回学術集会に関わる開催年度の費用。（開催地：金沢）
- ※19 第40回学術集会に関わる開催前年度の費用。（開催地：東京）
- ※20 正職員5名、パート2名（週1～3日勤務）の給与・賞与および、社会保険料、健康診断料など。
- ※21 学会総会1回<12月/第39回学術集会の会場を使用（53万円）>、W E B による出欠確認費用（33万円）。往復はがきによる総会出欠の確認（印刷料9.5万円+郵送料79万円）をW E B 確認（33万円）に変更し費用を削減している。2018年予算は郵送料（79万円）を通信運搬費に計上していた。
- ※22 社員総会2回（6月・12月/貸し会議室使用）。会員の増加により代議員を264名から315名に増員している。
- ※23 定例理事会6回（5月、6月、9月、10月、12月、2月）に加えて理事改選により臨時理事会を開催する。（6月・12月/貸し会議室使用）
- ※24 【法人として必要】  
会計事務所(121万円)<会計顧問料(77万)、内閣府提出書類作成料(11万)、社会保険労務士(33万円)>、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(39万円)、司法書士(5万円)  
【学会事業に直接必要】  
会員管理システム利用料(220万円)<基本利用料(104万)、会費コンビニ決済機能(24万)、学術集會参加登録・行事管理機能(78万)、アンケート機能(14万)>、J A N S ホームページ年間維持更新管理料(71万円)、ホームページ英訳費用(33万円)、W E B 会議システムV-CUBE(49万円)、封入委託費(12万円)  
【事務所運営費】  
事務所警備委託費(21万円)

- ※25 事務所職員の出張に伴う交通費。第39回学術集会は金沢開催のため、前年度(愛媛開催)より減額している。通勤費は「通勤手当」に別途計上している。
- ※26 理事長交代挨拶状、委嘱状(理事、監事、代議員、各委員会委員、査読委員)の郵送、会員増加に伴う郵送費増加と消費税増税をみこして増額したが、学会総会出欠確認を往復はがき(約79万円)からWEBに変更(※21)することにより全体的に減額になっている。
- ※27 理事長の交替年のため挨拶状に関わる費用分を増額している。
- ※28 事務所賃借料、コピー機リース料、紙折り機リース料。事務所パソコンをリースにするため増額している。
- ※29 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入)に関わる法人税および法人事業税は0円、法人住民税約7万円(均等割分のみ)。消費税課税売上高(学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など)に関わる消費税(本則課税方式)。英文誌ロイヤリティに関わる外国税2.6万円(ロイヤリティの5%)。
- ※30 年会費<日本看護系学会協議会8万円、看護系学会等社会保険連合30万円(前年は7万円)>
- ※31 会員増加および、会費の払込手数料の値上げ(70円増額/1件)により増額している。
- ※32 6月社員総会時に新役員新任投票をおこなう費用。
- ※33 活動経費支出ではないが、会費の未納により収入が減少するため費用に計上している。決算時に正味財産増減計算書にも表示される。
- ※34 選挙費用に充当するための積立金。2020年度の理事選挙、2022年度の役員選挙・代議員選挙に充当する金額を毎年積立てる。
- ※35 事務所契約更新料(賃借料)のうち発生主義の原則に基づき翌々年分を「長期前払費用」として繰延べている。

# 2019年度 収支予算書

2019年4月1日から2020年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業				収益事業等			合計			
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売		連携事業	計	法人会計
I 一般正味財産増減の部											
I. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					49,000,000	49,000,000					49,000,000
賛助会員受取会費					300,000	300,000					300,000
事業収益											
学会誌収益(講演集含む)		495,000				495,000					495,000
学術集会参加費			42,600,000			42,600,000					42,600,000
広告販売収入							9,732,000				9,732,000
寄付金・助成金											
雑収益		250,000	4,940,000			5,190,000					5,190,000
受取利息										1,000	1,000
著作権利		636,000				636,000					636,000
懇親会収入											
セミナー収益	3,345,000	1,010,000				4,355,000					4,355,000
その他の雑収入											
経営収益計	3,345,000	2,391,000	47,540,000		49,300,000	102,576,000	9,732,000			49,751,000	162,059,000
① 事業費											
学会誌発行費		25,927,000				25,927,000					25,927,000
受賞論文表彰費		307,000				307,000					307,000
助成金											
会場費	1,160,000	176,000	35,496,731			37,299,731	631,269				37,931,000
会議費	231,000	235,000	683,839			1,190,839	12,161				1,203,000
旅費交通費	5,045,597	1,766,768	1,161,399			8,584,483	22,192				8,609,821
消耗品費	423,698	168,730	1,387,581			2,075,247	29,642				2,115,048
通信運搬費	703,453	231,713	3,385,259			4,459,388	68,010				4,543,373
印刷製本費	692,169	161,373	3,964,946			4,989,434	70,821				5,060,886
委託費	3,021,128	1,013,203	10,825,698			15,344,622	49,729				15,444,080
諸謝金	247,000	130,000	486,000			1,093,000					1,093,000
雑費	884,355	304,290	1,800,092			3,042,705	42,102				3,105,452
賃借料	1,048,081	403,108	991,603			2,494,528	34,490				2,563,508
租税公課	104,016	90,339	466,266			660,621	402,466				1,063,087
通勤手当	473,006	181,925	447,516			1,125,796	15,566				1,156,928
退職給付費用	174,265	67,025	164,875			414,767	5,735				426,237
福利厚生費	1,000,780	384,916	946,851			2,381,941	32,934				2,447,816
光熱水料費	189,699	72,962	179,478			451,503	6,243				463,989
修繕費	12,447	4,787	11,777			29,625	410				30,445
火災保険料	21,161	8,139	20,020			50,365	696				51,757
減価償却費	135,178	52,229	125,870			319,943	4,443				328,925
給料手当(委員会等人件費含む)	6,082,696	2,312,576	5,932,694			14,688,350	193,589				15,075,528

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
<b>②管理費</b>											
懇親会費										756,000	756,000
学会総会費										860,000	860,000
社員総会費										4,426,000	4,426,000
理事会費										4,450,000	4,450,000
会場費											
会議費										39,000	39,000
旅費交通費										350,179	350,179
消耗品費										484,952	484,952
通信運搬費										762,627	762,627
印刷製本費										30,114	30,114
委託費										2,673,920	2,673,920
諸謝金										50,000	50,000
雑費										987,548	987,548
租税公課										36,913	36,913
通勤手当										743,072	743,072
退職給付費用										273,763	273,763
福利厚生費										1,572,184	1,572,184
光熱水料費										298,011	298,011
賃借料										1,646,492	1,646,492
修繕費										19,555	19,555
火災保険料										33,243	33,243
減価償却費										219,522	219,522
渉外費										30,000	30,000
慶弔費										50,000	50,000
支払員負担金										380,000	380,000
支払寄付金											
給料手当(委員会等人件費含む)	21,649,729	33,999,083	68,478,495	2,803,588						9,241,472	9,241,472
経常費用計	-18,304,729	-31,608,083	-20,938,495	-2,803,588	49,300,000	126,930,895	1,622,498	394,487	2,016,985	30,414,567	159,362,447
当期経常増減額										8,109,502	7,715,015
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額											
税引前当期一般正味財産増減額	-18,304,729	-31,608,083	-20,938,495	-2,803,588	57,026,808	7,726,808	-7,726,808	0	-7,726,808	19,336,433	2,696,553
法人税、住民税及び事業税										70,000	70,000
当期一般正味財産増減額	-18,304,729	-31,608,083	-20,938,495	-2,803,588	57,026,808	-16,628,087	312,694	-394,487	-81,793	19,336,433	2,626,553

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合(面積割合や従事割合など)に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用(要積立額)」を本予算書に計上している。

#### 4. 第 41 回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告

- ・ 第 41 回（2021 年度）日本看護科学学会学術集会会長

百瀬 由美子（愛知県立大学）

付録

## 平成 29 年度決算書類（抜粋）

- 平成 29 年度貸借対照表
- 平成 29 年度正味財産増減計算書
- 平成 29 年度収支計算書

詳細はホームページをご参照ください

貸借対照表内訳表  
平成 30年 3月 31日 現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
<b>I 資産の部</b>					
<b>1. 流動資産</b>					
現金預金	0	0	144,140,963	0	144,140,963
未収会費	0	0	2,510,000	0	2,510,000
未収金	464,809	0	0	0	464,809
たな卸資産	281,708	0	0	0	281,708
前払費用	4,756,155	0	552,518	0	5,308,673
他会計短期貸付金	0	0	35,966,626	△ 35,966,626	0
仮払金	0	0	6,804	0	6,804
流動資産合計	5,502,672	0	183,176,911	△ 35,966,626	152,712,957
<b>2. 固定資産</b>					
(1)基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2)特定資産					
選挙積立預金	0	0	3,007,778	0	3,007,778
退職給付引当資産	0	0	3,246,900	0	3,246,900
特定資産合計	0	0	6,254,678	0	6,254,678
(3)その他固定資産					
什器備品	42,717	1,882	71,824	0	116,423
リース資産	1,247,088	34,484	823,132	0	2,104,704
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
保証金	0	0	1,400,000	0	1,400,000
長期前払費用	0	0	108,000	0	108,000
その他固定資産合計	1,289,805	36,366	2,474,986	0	3,801,157
固定資産合計	1,289,805	36,366	8,729,664	0	10,055,835
<b>資産合計</b>	<b>6,792,477</b>	<b>36,366</b>	<b>191,906,575</b>	<b>△ 35,966,626</b>	<b>162,768,792</b>
<b>II 負債の部</b>					
<b>1. 流動負債</b>					
前受会費	0	0	19,240,000	0	19,240,000
未払費用	3,186,921	0	481,925	0	3,668,846
未払法人税等	0	72,500	0	0	72,500
未払消費税等	0	0	306,900	0	306,900
預り金	0	0	388,524	0	388,524
短期リース債務	311,772	8,622	205,782	0	526,176
他会計短期借入金	32,735,955	3,230,671	0	△ 35,966,626	0
流動負債合計	36,234,648	3,311,793	20,623,131	△ 35,966,626	24,202,946
<b>2. 固定負債</b>					
長期リース債務	935,316	25,862	617,350	0	1,578,528
退職給付引当金	0	0	3,246,900	0	3,246,900
固定負債合計	935,316	25,862	3,864,250	0	4,825,428
<b>負債合計</b>	<b>37,169,964</b>	<b>3,337,655</b>	<b>24,487,381</b>	<b>△ 35,966,626</b>	<b>29,028,374</b>
<b>III 正味財産の部</b>					
<b>1. 基金</b>					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
<b>2. 一般正味財産</b>					
(1)代替基金	0	0	0	0	0
(2)その他一般正味財産	△ 30,377,487	△ 3,301,289	94,492,570	0	60,813,794
一般正味財産合計	△ 30,377,487	△ 3,301,289	94,492,570	0	60,813,794
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(3,007,778)	(0)	(3,007,778)
<b>正味財産合計</b>	<b>△ 30,377,487</b>	<b>△ 3,301,289</b>	<b>167,419,194</b>	<b>0</b>	<b>133,740,418</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>6,792,477</b>	<b>36,366</b>	<b>191,906,575</b>	<b>△ 35,966,626</b>	<b>162,768,792</b>

正味財産増減計算書

平成 29年 4月 1日 から平成 30年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	46	50	△ 4
受取会費			
正会員受取会費	91,450,000	87,990,000	3,460,000
賛助会員受取会費	300,000	300,000	0
受取会費計	91,750,000	88,290,000	3,460,000
事業収益			
学会誌収益	603,280	1,362,420	△ 759,140
学術集会収益	42,404,000	47,444,000	△ 5,040,000
広告販売収益	10,815,360	10,795,800	19,560
事業収益計	53,822,640	59,602,220	△ 5,779,580
受取寄付金			
受取寄付金	50,000	1,650,000	△ 1,600,000
受取寄付金振替額	0	78,472	△ 78,472
受取寄付金計	50,000	1,728,472	△ 1,678,472
雑収益			
受取利息	385	379	6
著作権料収益	587,672	443,217	144,455
セミナー収益	3,387,500	5,342,500	△ 1,955,000
懇親会収益	707,000	458,000	249,000
雑収益	0	234,000	△ 234,000
雑収益計	4,682,557	6,478,096	△ 1,795,539
経常収益計	150,305,243	156,098,838	△ 5,793,595
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	301,095	290,679	10,416
和文誌発行費	5,418,103	3,450,986	1,967,117
英文誌発行費	17,052,744	17,571,400	△ 518,656
期末たな卸高	△ 281,708	△ 301,095	19,387
給料手当	11,249,209	12,832,073	△ 1,582,864
臨時雇賃金	186,000	224,300	△ 38,300
賞与	1,624,794	1,322,977	301,817
退職給付費用	604,586	1,039,164	△ 434,578
福利厚生費	2,097,961	2,057,302	40,659
旅費交通費	3,850,583	2,930,029	920,554
通信運搬費	4,318,022	3,846,472	471,550
減価償却費	329,374	331,185	△ 1,811
消耗品費	3,761,102	1,439,382	2,321,720
修繕費	0	23,017	△ 23,017
印刷製本費	4,762,083	6,955,398	△ 2,193,315
慶弔費	13,363	18,269	△ 4,906
光熱水料費	441,957	408,421	33,536
賃借料	2,337,873	2,294,031	43,842
保険料	50,820	50,838	△ 18
諸謝金	775,658	788,511	△ 12,853
租税公課	787,201	989,376	△ 202,175
支払寄付金	0	78,472	△ 78,472
委託費	13,540,649	14,123,166	△ 582,517
会議費	857,035	842,534	14,501
表彰費	82,160	177,280	△ 95,120
会場費	29,593,520	30,503,609	△ 910,089
通勤手当	837,574	1,040,694	△ 203,120
雑費	1,707,767	277,240	1,430,527
事業費計	106,299,525	105,605,710	693,815

## 正味財産増減計算書

平成 29年 4月 1日 から平成 30年 3月 31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費			
給料手当	7,225,148	8,241,792	△ 1,016,644
賞与	1,043,573	849,723	193,850
臨時雇賃金	30,750	21,750	9,000
退職給付費用	388,314	667,436	△ 279,122
福利厚生費	1,347,480	1,321,364	26,116
会議費	6,192,173	5,544,174	647,999
渉外費	8,640	10,800	△ 2,160
旅費交通費	614,985	200,711	414,274
通信運搬費	1,113,666	957,875	155,791
減価償却費	220,242	294,814	△ 74,572
通勤手当	537,956	668,416	△ 130,460
消耗品費	285,608	693,690	△ 408,082
修繕費	0	14,783	△ 14,783
印刷製本費	15,617	30,731	△ 15,114
慶弔費	8,581	11,731	△ 3,150
光熱水料費	283,862	262,320	21,542
賃借料	1,501,570	1,473,412	28,158
保険料	32,640	32,651	△ 11
租税公課	24,734	20,774	3,960
支払負担金	150,000	150,000	0
委託費	3,612,668	3,460,666	152,002
資格喪失者会費	1,920,000	2,390,000	△ 470,000
懇親会費	879,120	677,991	201,129
雑費	698,563	1,917,558	△ 1,218,995
管理費計	28,135,890	29,915,162	△ 1,779,272
経常費用計	134,435,415	135,520,872	△ 1,085,457
評価損益等調整前当期経常増減額	15,869,828	20,577,966	△ 4,708,138
当期経常増減額	15,869,828	20,577,966	△ 4,708,138
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	15,869,828	20,577,966	△ 4,708,138
法人税、住民税及び事業税	72,500	70,300	2,200
当期一般正味財産増減額	15,797,328	20,507,666	△ 4,710,338
一般正味財産期首残高	45,016,466	24,508,800	20,507,666
一般正味財産期末残高	60,813,794	45,016,466	15,797,328
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	0	78,472	△ 78,472
当期指定正味財産増減額	0	△ 78,472	78,472
指定正味財産期首残高	0	78,472	△ 78,472
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 基金増減の部			
基金受入額	0	0	0
基金返還額	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	133,740,418	117,943,090	15,797,328

## 平成29年度 収支計算書

平成 29年 4月 1日 から平成30年 3月 31日 まで

科 目	補足	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	平成29年度 決算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	差異	予算執行率 (%)
<b>I 事業活動収支の部</b>					
1. 事業活動収入					
①特定資産運用収入		1,000	46	954	4.6
特定資産受取利息収入		1,000	46	954	4.6
②会費収入		91,800,000	91,750,000	50,000	99.9
正会員会費収入	※1	91,500,000	91,450,000	50,000	99.9
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0	100.0
③学会誌収入		590,000	603,280	△ 13,280	102.3
④雑収入		5,496,000	3,975,557	1,520,443	72.3
受取利息収入		1,000	385	615	38.5
著作権料収入		250,000	587,672	△ 337,672	235.1
セミナー収入	※3	5,245,000	3,387,500	1,857,500	64.6
JANSセミナー		3,880,000	3,226,000	654,000	83.1
JJNSセミナー		1,365,000	156,500	1,208,500	11.5
JANS若手の会 (第1回研究会)		0	5,000	△ 5,000	0.0
⑤学術集会収入		50,885,000	53,976,360	△ 3,091,360	106.1
学術集会参加費収入		41,050,000	42,404,000	△ 1,354,000	103.3
事前登録会員 (10,000円)		17,000,000	18,410,000	△ 1,410,000	108.3
事前登録非会員 (12,000円税込)		6,000,000	4,032,000	1,968,000	67.2
事前登録学部生 (3,000円税込)		30,000	213,000	△ 183,000	710.0
当日登録会員 (12,000円)	※4	14,400,000	13,500,000	900,000	93.8
当日登録非会員 (14,000円税込)		3,500,000	6,174,000	△ 2,674,000	176.4
当日登録学部生 (3,000円税込)		120,000	75,000	45,000	62.5
寄附金・助成金収入		0	50,000	△ 50,000	0.0
広告販売収入		9,385,000	10,815,360	△ 1,430,360	115.2
企業展示出展料		5,249,000	8,307,360	△ 3,058,360	158.3
広告掲載料		2,840,000	1,188,000	1,652,000	41.8
スポンサードセミナー		1,296,000	1,320,000	△ 24,000	101.9
懇親会収入		450,000	707,000	△ 257,000	157.1
<b>事業活動収入合計 (I a)</b>		<b>148,772,000</b>	<b>150,305,243</b>	<b>△ 1,533,243</b>	<b>101.0</b>
2. 事業活動支出					
①事業費支出		84,261,000	81,260,043	3,000,957	96.4
学会誌発行費支出		21,270,000	22,481,287	△ 1,211,287	105.7
和文誌編集費支出	※5	3,970,000	5,418,103	△ 1,448,103	136.5
英文誌編集費支出		17,300,000	17,063,184	236,816	98.6
編集活動費支出		1,885,000	1,102,127	782,873	58.5
和文誌編集委員会費支出		700,000	603,440	96,560	86.2
英文誌編集委員会費支出	※6	1,185,000	498,687	686,313	42.1
看護学術振興費支出		6,450,000	2,533,614	3,916,386	39.3
研究・学術情報委員会費支出	※7	1,420,000	304,008	1,115,992	21.4
国際活動推進委員会費支出	※8	2,195,000	1,038,336	1,156,664	47.3
看護学学術用語検討委員会費支出		847,000	455,503	391,497	53.8
看護倫理検討委員会費支出		450,000	136,030	313,970	30.2
表彰論文選考委員会費支出		180,000	77,117	102,883	42.8
若手研究推進委員会支出		710,000	371,564	338,436	52.3
看護ケア開発・標準化委員会		448,000	9,548	438,452	2.1
災害看護支援委員会支出		200,000	141,508	58,492	70.8
研究学術活動支援費支出		5,550,000	4,088,314	1,461,686	73.7
受賞論文表彰費支出		185,000	82,160	102,840	44.4
研究倫理審査委員会費		120,000	3,316	116,684	2.8
JANSセミナー開催費		3,880,000	3,139,532	740,468	80.9
JJNSセミナー開催費		1,365,000	863,306	501,694	63.2
社会的活動費支出		1,035,000	679,917	355,083	65.7
社会貢献委員会支出 (市民フォーラム等開催費含む)		535,000	227,712	307,288	42.6
広報委員会費支出 (公益目的事業分)	※9	500,000	452,205	47,795	90.4

平成29年度 収支計算書  
平成 29年 4月 1日 から平成30年 3月 31日 まで

科 目	補足	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	平成29年度 決算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	差異	予算執行率 (%)
学術集会費支出		48,071,000	50,374,784	△ 2,303,784	104.8
当年度開催学術集会	※10	45,292,000	48,046,691	△ 2,754,691	106.1
会場費支出		25,108,000	28,105,664	△ 2,997,664	111.9
会議費支出		2,026,000	648,465	1,377,535	32.0
旅費交通費支出		1,710,000	914,286	795,714	53.5
消耗品費支出		747,000	2,938,518	△ 2,191,518	393.4
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,313,000	1,389,168	△ 76,168	105.8
印刷製本費支出(プログラム印刷含む)		5,628,000	3,422,312	2,205,688	60.8
委託費支出		6,650,000	8,856,944	△ 2,206,944	133.2
人件費支出		21,000	0	21,000	0.0
謝金支出		984,000	430,644	553,356	43.8
雑支出		305,000	461,570	△ 156,570	151.3
懇親会運営費支出		800,000	879,120	△ 79,120	109.9
次年度開催学術集会(準備期間)	※11	2,779,000	2,328,093	450,907	83.8
会場費支出		0	0	0	0.0
会議費支出		40,000	0	40,000	0.0
旅費交通費支出		40,000	119,962	△ 79,962	299.9
消耗品費支出		409,000	274,045	134,955	67.0
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		947,000	1,046,223	△ 99,223	110.5
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		608,000	433,955	174,045	71.4
委託費支出		519,000	388,800	130,200	74.9
人件費支出		216,000	65,000	151,000	30.1
謝金支出		0	0	0	0.0
雑支出		0	108	△ 108	0.0
②管理費支出		54,896,000	52,536,369	2,359,631	95.7
給料手当支出	※12	22,200,000	21,142,724	1,057,276	95.2
福利厚生費支出		3,800,000	3,445,441	354,559	90.7
通勤費支出		1,700,000	1,375,530	324,470	80.9
退職給付支出	※13	300,000	2,842,900	△ 2,542,900	947.6
学芸総会	} (会議費支出)	400,000	189,105	210,895	47.3
社員総会		4,000,000	2,795,895	1,204,105	69.9
理事会		3,100,000	3,158,034	△ 58,034	101.9
委託費支出	※15	5,880,000	5,377,641	502,359	91.5
人件費支出		0	30,750	△ 30,750	0.0
旅費交通費支出		380,000	309,406	70,594	81.4
通信運搬費支出	※16	2,368,000	2,847,589	△ 479,589	120.3
消耗品費支出	※17	2,120,000	730,286	1,389,714	34.4
印刷製本費支出		82,000	39,934	42,066	48.7
諸謝金支出		50,000	0	50,000	0.0
渉外費支出		30,000	8,640	21,360	28.8
慶弔費支出		50,000	21,944	28,056	43.9
光熱水料費支出		735,000	725,819	9,181	98.8
賃借料支出		3,840,000	3,839,443	557	100.0
保険料支出		85,000	83,460	1,540	98.2
租税公課支出	※18	1,072,000	811,935	260,065	75.7
負担金支出	※19	150,000	150,000	0	100.0
修繕費支出		50,000	0	50,000	0.0
雑支出	※20	1,640,000	1,786,190	△ 146,190	108.9
総務費支出		864,000	823,703	40,297	95.3
総務委員会費支出		35,000	8,650	26,350	24.7
利益相反委員会費支出		109,000	0	109,000	0.0
広報委員会費支出(法人会計分)	※21	370,000	434,023	△ 64,023	117.3
選挙費用支出		350,000	381,030	△ 31,030	108.9
③その他の支出		0	1,992,500	△ 1,992,500	0.0
資格喪失者会費支出	※22	—	1,920,000	1,920,000	0.0
法人税、住民税及び事業税	※23	—	72,500	72,500	0.0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>139,157,000</b>	<b>135,788,912</b>	<b>3,368,088</b>	<b>97.6</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>9,615,000</b>	<b>14,516,331</b>	<b>△ 4,901,331</b>	<b>151.0</b>

平成29年度 収支計算書  
平成 29年 4月 1日 から平成30年 3月 31日 まで

科 目	補足	平成29年度 二次補正予算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	平成29年度 決算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	差異	予算執行率 (%)
<b>Ⅱ 投資活動収支の部 (資金の内部移動)</b>					
1. 投資活動収入(各積立金を取り崩し、それを資金として使用する)					
選挙積立取崩(選挙費用として使用)		109,000	381,030	△ 272,030	
退職給付引当資産取崩		1,500,000	2,842,900	△ 1,342,900	
<b>投資活動収入合計(Ⅱa)</b>		<b>1,850,000</b>	<b>3,223,930</b>	<b>△ 1,373,930</b>	
2. 投資活動支出 (目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える)					
選挙積立預金		1,500,000	1,500,021	△ 21	
退職給付引当金積立		680,000	992,900	△ 312,900	
事務所更新料 (長期前払費用)		108,000	108,000	0	
<b>投資活動支出合計(Ⅱb)</b>		<b>2,288,000</b>	<b>2,600,921</b>	<b>△ 312,921</b>	
<b>投資活動収支差額(Ⅱa)-(Ⅱb)</b>		<b>△ 438,000</b>	<b>623,009</b>	<b>△ 1,061,009</b>	
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>					
1. 財務活動収入					
財務活動収入合計(Ⅲa)		0	0	0	
2. 財務活動支出					
リース債務返済支出			526,176	526,176	
財務活動支出合計(Ⅲb)		0	526,176	△ 526,176	
<b>財務活動収支差額(Ⅲa)-(Ⅲb)</b>		<b>0</b>	<b>△ 526,176</b>	<b>526,176</b>	
<b>Ⅳ 予備費支出</b>		<b>3,000,000</b>	<b>0</b>	<b>3,000,000</b>	
<b>当期収支差額</b>		<b>6,177,000</b>	<b>14,613,164</b>	<b>△ 8,962,340</b>	
<b>前期繰越収支差額</b>		<b>114,141,000</b>	<b>114,141,315</b>		
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>120,318,000</b>	<b>128,754,479</b>		

- ※1 平成29年度会費として請求した金額を計上。  
平成29年中に納入された会費は、平成28年度未収会費 21名分、平成29年度会費 6957名分(新入会772名、再入会65名含む)、平成30年度前受会費 1903名分、平成31年度前受会費 1名分。平成28年度中に納入された平成29年度会費 1937名分は28年度決算に算入済。平成29年度会費未納者は254名(うち3名は請求対象外)。平成29年度会費の納入率(8894名/9148名 97.2%)。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・ヌーヴェルヒロカワ 各1口。会費1口50,000円
- ※3 JANSセミナー参加費 <6月開催 1,003,000円(会員109名×4,000円、非会員3名×7,000円、WEB182名×3,000円)>、<3月開催 2,223,000円(会員123名×5,000円、非会員51名×8,000円、WEB400名×3,000円)>、JJNSセミナー参加費 <12月開催 156,500円(会員30名×5,000円、非会員1名×6,500円)>、第1回若手の会(九州エリア)<5,000円(10名×500円)>
- ※4 参加見込み3700人のところ3839人の参加があった。
- ※5 投稿数の増加に伴い編集経費予算を上回った。平成28年(36巻)272頁から平成29年(37巻)472頁に増加している。
- ※6 若手研究者支援事業に2件の投稿があったが審査の結果支援可能な状況ではないとの結論になったため支援金を支出しなかった。
- ※7 JANS所有の研究リソースのアーカイブ化にOneDrive(Office365)を利用したことにより費用が抑えられた。海外講師を招聘しなかったため支出が抑えられた。
- ※8 異文化看護データベースの再構築について、科研費の不採択により現状維持のまま内容の枠組みの検討をすることになったため関連費用が抑えられた。
- ※9 【広報委員会の活動のうち公益目的事業(市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェ、学術集会)に関する経費を事業費に計上した。】
- ※10 第37回学術集会の平成29年度にかかった経費。
- ※11 第38回学術集会の平成29年度にかかった経費。
- ※12 契約職員の延長をしなかった。(理事会承認済)
- ※13 規程の改正によりパート職員に支給(理事会承認済)
- ※14 定例理事会6回(5月、6月、7月臨時、9月、11月、12月、2月)、社員総会2回(6月・12月)、学会総会1回(12月/学術集会の会場を使用)。
- ※15 【法人として必要】  
会計事務所(127万円)<会計顧問料(77万)、内閣府提出書類作成料(11万)、司法書士(7万円)、社会保険労務士(32万円)>、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(39万円)  
【学会事業に直接必要】  
会員管理システム利用料(206万円)<基本利用料(99万)、会費コンビニ決済機能(23万)、学術集会参加登録・行事管理機能(70万)、アンケート機能(14万)>、JANSホームページ年間維持更新管理料(52万円)、ホームページ英訳費用(6万円)、Web会議システムV-CUBE(44万円)、封入委託費(7万円)  
【事務所運営費】  
事務所警備委託費(21万円)
- ※16 平成29年6月1日より郵便料金が改訂されたため支出が上回った。
- ※17 複合機の機種変更により専用用紙を利用しなくなったため軽減されている。

- ※18 消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）に係る消費税（本則課税方式）。収入印紙代。
- ※19 日本看護系学会協議会8万円、看護系学会等社会保険連合（看保連）7万円。
- ※20 会費入金手数料（107万円）、経費支払手数料（31万円）、ネットバンキング利用料（2万円）、貸金庫（1.5万円）、決算に伴う証明書発行手数料（1万円）、理事会・委員会使用分含む事務所雑支出（36.1万円）＜給与ソフト年間サポート料（4.4万円）、飲料水（17.2万円）、ごみ処理（4.5万円）、お茶・置き薬・トイレ用品等（10万円）＞
- ※21 【広報委員会の活動のうち、委員会開催費（会議費）を管理費に計上した。】
- ※22 平成28（2016）年度会費を未納のため資格喪失者となり退会した会員分の会費。
- ※23 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入）に係る法人税1,900円、法人住民税100円（法人税割）、法人都民税70,000円（均等割分）、法人事業税500円。

